

医療と介護
いま輝くひと

Tomonile
Interview
vol.3

菅原由美さん

全国訪問ボランティアアナリストの会
「キャンナス」代表



看護師の力を活かし
在宅介護の現場を支えたい

すがわらゆみ
全国訪問ボランティアアナリストの会「キャンナス」代表、有限会社
ナースケア代表、看護師、1955年神奈川県生まれ。76年東海
大学医療技術短期大学看護学科卒業。東海大学病院ICUに勤務
後、企業や保健所などで非常勤勤務のかたわら3人の子どもを
育てる。96年ボランティアアナリストの会「キャンナス」を設立。98
年有限会社「ナースケア」設立。

看護師としての役割を 介護現場で再確認

看護師（Nurse）ができる（Can）ことをやる、という意味で名付けられた、全国訪問ボランティアアナースの会「キャンナス」。代表を務める菅原由美さんは1996年に同会を立ち上げました。「通院時の付き添いや、障がい児の一時的なケアなど、医療的な処置が必要とされている在宅介護現場で看護師として、少しでもご家族の介護の負担軽減ができれば」と、活動内容を話します。



- 2009年に「ナースオブサイヤ一賞」と「インディペンデントナース賞」をダブル受賞した際のトロフィー
- 「介護、看護の世界でもおしゃれを楽しみながら働きたいです」と話します
- スタッフと談笑する菅原さん。「スタッフの仲が良いのも、キャンナスの特徴です」
- 趣味はダイビング。インドネシアの海岸で拾ったオウム貝と事務所近くの湘南海岸で拾ったサザエを見て、仕事の疲れを癒します

撮影/工藤クイイチ

看護師としてICU病棟に勤務後、結婚を機に退職。自営業の夫を手伝うかたわら、保健所などで非常勤看護師として働いていました。そんなとき、「点滴を交換できる看護師のあなたがいれば、自宅で過ごせます」と医師から言われたことから、末期がんの養母の在宅介護を決意。「医療現場から長年離れていても、看護師だからこそ活躍できる場所がある」と気づくとともに、介護を担う家族の大変さも実感し、「訪問ボランティアアナース」という発想が浮かんだと話します。「看

護や介護で疲れているご家族のお手伝いをすることで、介護現場を支えたい」というキャンナスの願いも、ここから生まれました。

100支部目指して 全国を飛び回る

現在、菅原さんは全国に40以上あるキャンナスの支部を統括しており、現場で働く看護師は100人を超えます。「看護師だからこそ、点滴などの医療的ケアは自信をもって行えますし、ご家族にたんの吸引の方法を説明することもできます。自分のもつてい

る能力を、ぜひ介護現場で発揮してほしいと思っています」と、現場を離れている看護師に介護現場で働く意義を伝え、新たな一歩を踏み出す後押しをしています。

さらに、ケアマネジャーとしても活躍する菅原さんは、看護師とヘルパーの関係性も大切と強調。「看護師とヘルパーが支え合うことで、ケアがより良いものになります」と話します。

目下、「キャンナス100支部」を目標に介護と看護の連携を大切にした支部づくりに取り組んでいます。